

今後の進め方

地域の課題や将来像について、今後のまちづくりに向けたご意見を地域の皆さまに伺うため、アンケート調査を実施します。

アンケート結果は、今後のまちづくりの検討にあたって参考とさせていただきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

STEP
1

- ・現在のまちの状況について知る
- ・これからのまちづくりについて考える

R7年10月・R8年1月実施

STEP
2

- ・まちの課題を共有
- ・まちづくりに必要なこと、望ましいことを共有

R8年4月実施

STEP
3

- ・まちづくりの将来像について検討
- ・まちづくりの方法・対策について検討

R8年7月実施

アンケートへのご協力をお願いします

<調査項目>

- ・篠崎地区のまちの将来像について

<調査対象>

- ・意見交換会の対象地区にお住まいの方、土地または建物を所有している方

<回答期限>

令和8年9月18日（金）まで

<回答方法>

- ・Webもしくは同封のアンケート調査票に直接ご記入いただき、返信用封筒に入れて、切手を貼らずにご投函お願いします。

【詳細はアンケート調査票をご確認ください】

詳細はアンケート調査票をご確認ください

STEP
4

- ・まちづくり方針としてとりまとめる
- ・まちづくりの進め方を設定する

R8年11月予定

◆ わからないことがありましたら、下記までお問い合わせください

【篠崎地区まちづくり意見交換会 事務局】

東京都 都市整備局 市街地整備部 企画課 ☎03-5320-5121

江戸川区 土木部 計画調整課 計画係 ☎03-5662-8389

区画整理課 篠崎地区まちづくり推進係 ☎03-5662-1987

受付時間 午前9時～午後5時（月曜日～金曜日）

篠崎地区

未来につながるまちづくり

まちづくりニュース

NO.5

2026/9/2

第4回篠崎地区まちづくり意見交換会を開催しました

災害に強いまちづくりの実現に向けて、上篠崎一丁目・二丁目地区の皆様と、篠崎地区の課題や将来について考えるため、令和8年7月9日に篠崎コミュニティ会館にて、第4回篠崎地区まちづくり意見交換会を開催しました。

今回は17名の方にご参加いただき、ワークショップ形式で意見交換を行いました。前回の議論をさらに深めながら、まちづくりの将来像について話し合いました。

ワークショップの流れ

【事務局からの説明】

- ・篠崎地区における都市計画上の位置付け
- ・江戸川区におけるまちづくり手法の事例紹介

※当日の説明資料は右記の「まちづくり意見交換会」これまでの議論は「まちづくりニュース」から見るができます。



まちづくり意見交換会



まちづくりニュース

【グループワーク】全4班

- ・前回の振り返り
- ・まちづくりの将来像の検討
- ・まとめ

【全体】

- ・各班発表
- 次のページにて紹介しています



▲グループワークの様子

ワークショップのまとめ ※一部を抜粋しています

まちの将来像を「つくる(改善)」「まもる(保全)」の2つの視点から話し合いました

住環境

【つくる】

- 子どもや高齢者、障がい者が安心して利用できる道路
- 親水空間や緑を活かし、散策を楽しめる空間づくり
- 電線や電柱のない暮らしやすいまち（電線類地中化）
- 子どもたちが遊べる公園
- 暑さ対策のための街路樹や木陰のある公園
- 土地区画整理事業により、公道に接した宅地を確保し、行き止まり道路の解消や土地の有効活用を進め、良好な住環境を形成
- 新しい住民を増やすために、高い建物を建てられるようにする

【まもる】

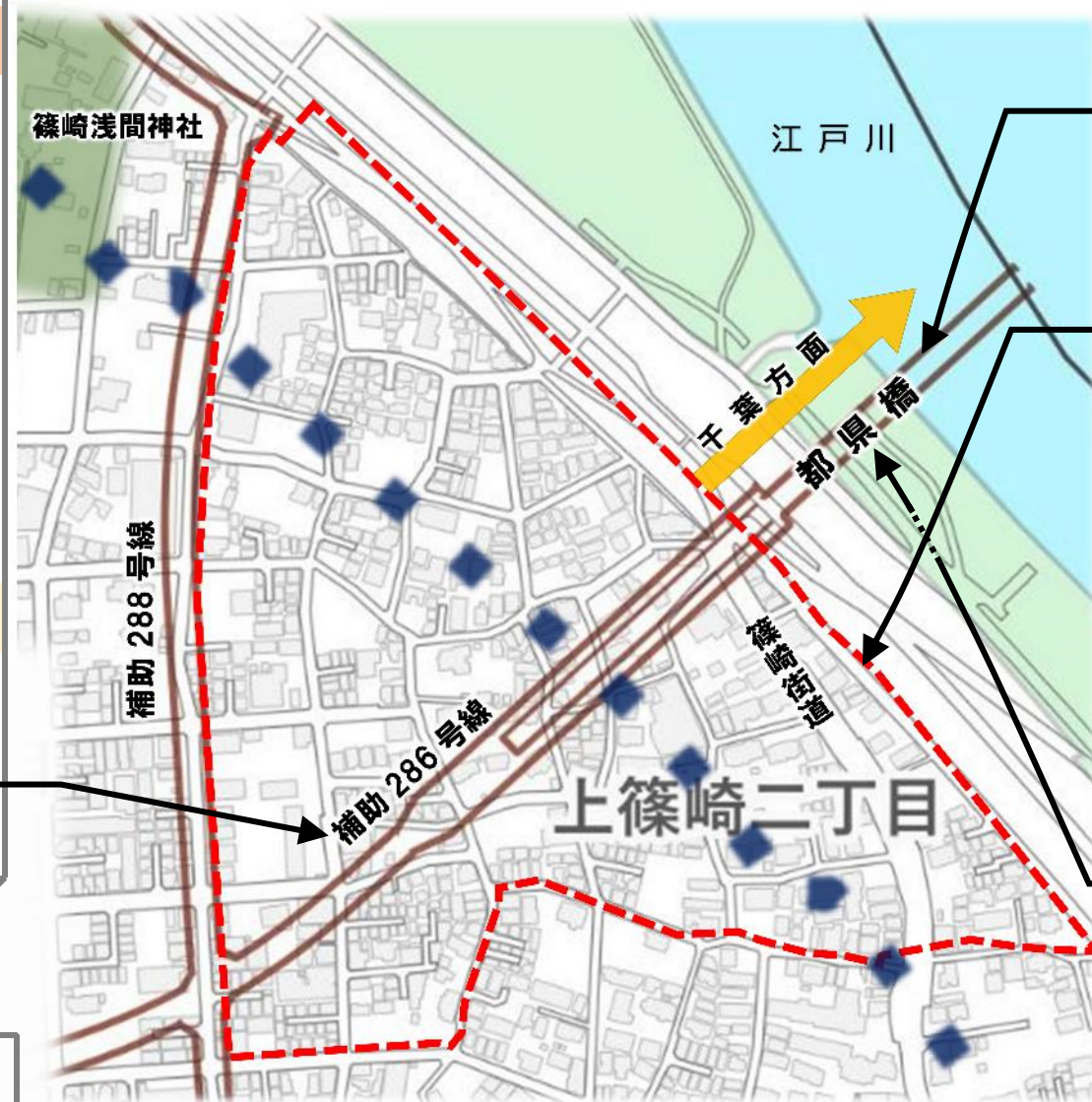
- 現在の静かで良好な住環境をまもる
- 日照などの観点から、高い建物が増えないようにする
- 道路整備による交通量の増加や騒音、排気ガスによる環境の悪化が生じないように配慮する
- 生産緑地や農地を含む地域の緑を残す

まちの魅力

【まもる】

- 都会にいながら田園的な暮らしができるまち「とかいなか」
- 浅間神社のお祭り等の多くの地域資源を守り、継承する
- 地域住民のつながりをまもる

検討図



--- : 検討範囲 — : 都市計画道路 補助 286 号線、288 号線
■ ■ ■ : 高規格堤防予定ライン（幅は堤防の高さの 30 倍程度を想定しています）

※図内の線は計画線であり、実際の整備位置を示したものではありません

防災

【つくる】

- 都市計画道路 286 号線や千葉県に繋がる橋など、災害時に地区外へ避難できる経路の確保
- 消防車などの緊急車両が通れる道路
- 水害から身を守るため、誰でも使える高台の避難場所や災害拠点
- 公園や広場などの避難場所
- 災害予測や避難判断を支援する情報システムの整備
- 地域の助け合い等ソフト面の充実
- 防災訓練への参加等地域住民の防災意識の向上

【まもる】

- 新しい橋は建設せず、高台への垂直避難や既存交通網を活用

